

会議概要

- アスファルト材料に関する第3回国際会議
 - 開催期間：8月6～7日
 - 主催：中国石油大学、ハルビン工科大学
 - 後援：北京Hutchinson Consulting
 - 出席者数：約200名
- ISAP Technical Committee APE
 - 開催日：8月8日
 - 主催：ISAP技術委員会（舗装と環境）
 - 出席者数：約70名

会場概要

- 会場となったHuiquan Dynasty Hotel
- 目の前にはチンタオ第一海水浴場が広がる一流リゾートホテル
- 右上の円板の部分は回転展望レストラン。基本的には朝昼晩の三食はここで取ることとなった



会議場概要

- 二日間の会議が行われた国際会議センター
- 約二〇〇名収容可能で、会議期間中、参加者は150名程度



通訳ブース

- 会場後方に同時通訳用のブースあり。通訳は意外にスムーズであった。
- 免許証等と引き替えにレシーバーを受け取ることができる
- 国際会議ではあったが開会式の挨拶はほとんど全て中国語であった



休憩時間

- 会議の合間に15分程度のコーヒブレイクあり。
- コーヒーだけでなく、ケーキや果物も供されていた。結果として15分のコーヒブレイクが長引く傾向にあった。



演壇付近

- 真ん中の机は座長用。
- 左に見えるのが発表者用のスペース。



ISAPワークショップ

- 会議室を変えて開催。
- 約70名の参加者。
- フランスやUSA、日本、台湾、韓国など12編の報告があり、あまりディスカッションの時間は取れなかった。
- Manfred Partl前ISAP会長が座長を担当



会議雑感

- 写真は会議中に供されていたお茶。カップに茶葉が入っていて、給仕が定期的にお湯を入れに来る。
- 物価が安いこともあり、会議登録料は400ドル。ホテルの宿泊費は800元／泊であり、5～10日の滞在で合わせて10万円程度。これには毎日の食事も懇親会費も全て含まれている。



チンタオ概要

- 写真は展望レストランからの眺め。手前が第一海水浴場。奥に近代的なチンタオの中心部が見える。中心市街地の人口は700万人とのこと。
- チンタオは観光・高級住宅街という面と、大規模な港湾を有する物流拠点という面を持ち、多くの方は高層アパートもしくはスラム街のような雑居ビルに住んでいるが、一部地域には一戸建ての高級住宅街が存在する。
- 海水浴場には若者より家族連れが多い。特に涼しくもなく、東京都内にいるのと気温も湿度も変わらないが、チンタオのビーチで過ごすというのは中国人成功者の証のようである。



チンタオの歴史

- 写真は“5月の風”という名の金属製のモニュメント。日本からの独立を勝ち取った記念に建てられたとのこと。
- チンタオは古くはドイツの植民地、その後日本の植民地となったが、学生運動が中国政府を動かし、中国に返還された(らしい)。
- 滞在中、特に反日感情などに触れることはなかった。このモニュメントの説明をしてくれた中国人学生も”That’s a history”と言っていた。あくまで歴史上そんなこともあった、という風に冷静に捉えているようだ。



高速道路視察

- 山東省の2大都市である青島(Qingdao)と済南(Jinan)を結ぶ高速道路。
- 視察といってもただ通っただけ。バスを降りて路面を見られると思っていたので残念。
- 道路は片側2もしくは3車線でかなり広い。1993年供用区間と2003年供用区間を走行したが、どちらも平たん性は悪かった。日本の高速道路はもとより一般国道以下のレベル。



アスファルト舗装路面の状況

- 市街地の幹線道路の路面。縦方向および横方向のひび割れが多く見受けられ、その多くはクラックシールで補修されていた。
- 路面性状を定期的に測定している様子にはなかった。管理基準も無さそうであった。
- セメント安定処理路盤がかなり使用されているようで、リフレクションクラックが問題、と言っていた。
- 排水性舗装らしき路面には出くわさなかった。



コンクリート舗装路面の状況

- 会議での発表では、コンクリート舗装もかなりあるとのことであったが、見かけたのは黄島地区の一部の道路だけであった。

